

通 信

沖縄生物学会第60回大会の開催のお知らせと講演プログラム

沖縄生物学会の第60回大会を下記の要領で開催いたします。今大会は口頭発表14題、ポスター発表17題(高校生2題、一般15題)の発表を予定しております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

沖縄生物学会 第60回大会

会期:2023年5月20日(土)

会場:琉球大学 理系複合棟 102 教室・玄関ホール

問い合わせ先(大会長:竹村明洋)098-895-8993, okinawaseibutu60th@gmail.com

大会日程

受 付	8:30～	理系複合棟玄関ホール
一般講演【午前の部】	9:00～10:30	理系複合棟102室
高校生・一般ポスター発表	10:30～12:00	理系複合棟玄関ホール
休 憩(昼食)	12:00～13:00	
総 会	13:00～14:00	理系複合棟102室
休 憩	14:00～14:15	
一般講演【午後の部】①	14:15～15:15	理系複合棟102室
休 憩	15:15～15:30	
一般講演【午後の部】②	15:30～16:30	理系複合棟102室
休 憩	16:30～16:45	
公開シンポジウム	16:45～18:20	理系複合棟102室
懇親会	18:30～	琉球大学生協(中央食堂)

沖縄生物学会第 60 回大会準備委員会

大会長 竹村明洋

準備委員会委員長 竹村明洋

準備委員会委員 安里 瞳、伊澤雅子、宇田川伸吾、江藤 毅、片山 蒼、菊川 章、
武方宏樹、中村 崇、福永耕大

沖縄生物学会第60回大会

会期:2023年5月20日(土)

会場:琉球大学 理学部 理系複合棟 102教室・玄関ホール



琉球大学
(千原地区)全体図

会場案内

場所:琉球大学
沖縄県中頭郡西原町千原一番地

大会会場:琉球大学理系複合棟 102教室・玄関ホール
憩親会会場:大学生協 中央食堂

お車でお越しの方は北口からお入りください。
南口と東口の門は週末は利用できません。

沖縄生物学会第60回大会参加費:1,500円(学生1,000円)
(*高校生以下は参加費免除)
憩親会費:3,000円(学生1,000円)

<交通案内>

- ・琉大北口方面行き 高速バス
111番、113番および123番線
「琉大入口」で下車
(階段を上がると北口付近)
徒歩約15分(左図赤ルート)
- ・北口方面行き 路線バス
97番、98番および298番線
「琉大北口」下車
徒歩約15分(左図赤ルート)
- ・東口方面行き 路線バス
97番および58番線
「琉大東口」下車
徒歩約10分(左図緑ルート)

一般講演

【9:00～10:30】 口頭発表【午前の部】

理系複合棟102教室

O-01 9:00-9:15

水生シダ植物アカウキクサ *Azolla pinnata* の根における光感受性の活性酸素発生

○水本翔・山崎秀雄(琉球大・理)

O-02 9:15-9:30

沖縄県の島野菜ホソバワダン(ニガナ)の起源を探る

○國府方吾郎(科博・植物 / 琉大・理)・柿嶋聡(昭和大・富士山研)・伊東拓朗(東北大・植物園)・齊藤由紀子(琉球大・教育)・石井千賀子(科博・植物)・鐘國芳(中央研究院)・横田昌嗣(琉球大・名誉教授)

O-03 9:30-9:45

森林内におけるアマミヤマシギの活動性と沖縄島における生息状況

○小高信彦(森林総研九州)・鳥飼久裕(奄美野鳥の会)・久高将和・久高将洋(Yambaru Blue)・嵩原健二(沖縄野鳥研究)・水田拓(山階鳥研)

O-04 9:45-10:00

下地島と伊良部島における希少トカゲ類の生息状況

○安里瞳(琉球大・院・理工)・笹井隆秀(沖縄美ら島財団 / 琉球大・院・理工)・山本拓海(琉球大・院・理工)・戸田守(琉球大・熱生研)

O-05 10:00-10:15

クロイトカゲモドキの交雑帯における配偶者選択を調査するための実験系の確立

○松田明音(琉球大・院・理工)・戸田守(琉球大・熱生研)

O-06 10:15-10:30

異なる島のオキナワアオガエルには遺伝的違いがみられるか？

○荷川取美佑(琉大カガク院)・上村亮(琉球大・院・理工)・富永篤(琉球大・教育)

【10:30～12:00】 ポスター発表【高校生・一般】 理系複合棟1階玄関ホール

※ポスター発表のプログラムは6～7ページに記載してあります。

【12:00～13:00】 休憩(昼食)

【13:00～14:00】 総会

理系複合棟102教室

【14:00～14:15】 休憩

【14:15～16:30】 口頭発表【午後の部】

理系複合棟102教室

O-07 14:15-14:30

オキナワイシカワガエル二題～洞外抱接と毒牙からの脱出～

○千木良芳範(うるま市)

O-08 14:30-14:45

西表島ユツン川におけるアメンボ類3種の生活史

○越川龍(東海大院・人間環境)・北野忠(東海大・教養)・井上太之・河野裕美(Island Ecosystem Research)

O-09 14:45-15:00

西表島における台湾タイコウチの野生復帰の試み

○佐藤翔吾(東海大院・人間環境)・北野忠(東海大・教養)・井上太之・水谷晃・河野裕美(Island Ecosystem Research)・大浜一将((株)星砂)・苅部治紀(神奈川県立生命の星・地球博物館)・荒谷邦雄(九州大院・比文)

O-10 15:00-15:15

西表島における海草藻場の衰退に伴う漁獲量の減少

○井上太之(Island Ecosystem Research)・水谷晃(IER)・河野裕美(IER)

【15:15～15:30】 休憩

O-11 15:30-15:45

沖縄近海におけるミナミオニヌマエビ種群について

○永井大翔(琉球大・院・理工)・今井秀行(琉球大・理)

O-12 15:45-16:00

沖縄島から稀に発見されるトゲシヤコ属 *Harpiosquilla* の分類学的研究

○中島広喜(琉球大・院・理工)・成瀬貫(琉球大・理工/熱生研)

O-13 16:00-16:15

軽石がコユビミドリイシ *Acropora digitifera* の生活史初期へ及ぼす潜在的影響

○YIN XIANGYU・SHI ZONGYAN(琉球大・院・理工)・中村崇(琉球大・理)

O-14 16:15-16:30

持続可能社会に向けた外来生物の教材化

○比嘉俊(琉球大・教職大学院)

【16:30～16:45】 休憩

【16:45～18:20】 公開シンポジウム 理系複合棟 102 教室

「沖縄への自然史博物館設立活動の過去、現在、未来」

(沖縄生物学会、日本動物学会・日本生態学会・日本植物学会 沖縄支部会合同)

コンビナー: 竹村明洋(琉球大・理)・伊澤雅子(北九州市立いのちのたび博物館)

沖縄生物学会は、第35回大会総会(1998年5月24日)において県立自然史博物館設立要請が決議した。この決議では県立自然史博物館の必要性が、世界に誇れる自然、自然の専門的文化施設、自然史研究の中核、自然環境保全、理科教育の拠点、観光立県、そして生涯教育等の観点から強調されている。現在、国立沖縄自然史博物館誘致活動が活発に行われ、2022年5月15日に決定された新・沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)にもアジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」設置促進が明記されている。30年前の沖縄生物学会総会での決議が実現に向けて着実に歩み出している。今回のシンポジウムでは、自然史博物館誘致活動の過去と現在、そして沖縄にあるべき博物館像(未来)を皆さんで共有し、誘致活動を盛り上げていきたい。

「沖縄生物学会での県立自然史博物館設立活動」

当山昌直(前沖縄生物学会会長)

「国立沖縄自然史博物館の設立活動」

岸本健雄(お茶の水女子大学・客員教授、国立自然史博物館設立準備委員会代表理事)

「沖縄に設立をめざす自然史博物館に期待すること」

小林 峻(琉球大学理学部海洋自然科学科助教)

【18:30～】 懇親会

大学生協 中央食堂(大学会館向い)

公開シンポジウム終了後、構内の大学生協中央食堂に移動し、ささやかな懇親会を予定しております。講演時間内に出来なかった討論や会員同士の親睦をより深めるため、是非ご参加下さい。

~~~~~  
ポスター発表演題一覧

【10:30~12:00】ポスター発表【高校生・一般】理系複合棟1階玄関ホール

【高校生】

- KP-01 名護岳と西銘岳の森林動物相の比較研究 (2) 2030年ネイチャーポジティブに向けて  
○畑信吾・田中啓達・上原蓬・岡田健吾・仲宗根諒大・仲本茶真・久保田蒼生(辺土名高校)
- KP-02 飼育下チンパンジーにおける環境エンリッチメントの効果について  
○島袋優真(球陽高)・○田中黎明(球陽高)・○山城未奈(球陽高)・○上原未羽(球陽高)

【一般】

- P-01 九州北部における外来珪藻の分布調査  
○天田啓(福岡工大・生命環境)
- P-02 沖縄島中南部の湧水に出現する溪流型アカボシタツナミソウ(シソ科)  
下地りん(琉球大・理)・○傳田哲郎(琉球大・理)
- P-03 坂口總一郎コレクションから見出された希少植物  
○天野正晴(沖縄美ら島財・総研セ)・齊藤由紀子(琉球大・教育)・菊川章(沖縄県博美)・内貴章世(琉球大・熱生研)
- P-04 沖縄県外来種対策事業(植物対策)の実施状況と課題  
○大嶺匡史・徳丸慶太郎(南西環境研究所)・宮良工・宮城保大(沖縄環境地域)・和宇慶剛(沖縄県自然保護課)
- P-05 マイクロプラスチックのベクター機能に関する可能性検討  
○宮本知治(琉球大・理工)・中村崇(琉球大・理)
- P-06 シラヒゲウニ陸上養殖における配合飼料の有用性の検証  
山内千裕(沖縄美ら島総研セ/琉大・研推)・仲村茂夫(沖縄美ら島総研セ)・○富田武照(沖縄美ら島総研セ)・守田昌哉(琉球大・熱生研)・浦和寛(北海道大・院・水)・中村將(沖縄美ら島総研セ)
- P-07 *Caecognathia* sp.(等脚目:ウミクワガタ科)のオス成体による幼生誘引効果の性差  
○大竹悠平(琉球大・院・理工)・広瀬裕一(琉球大・理)
- P-08 沖縄島に分布するミジンコ類  
○今泉久祥
- P-09 食物性残渣で生育する沖縄本島産昆虫種の探索  
森根睦喜(具志川高校)・○武方宏樹(琉大・研推)・竹村明洋(琉大・理)

- P-10 沖縄島北部におけるバーバートカゲとオキナワトカゲの生息環境の比較  
白数慎太郎・○小林峻(琉球大・理)
- P-11 ミトコンドリア遺伝子に基づく南大東島のオガサワラヤモリの遺伝的多様性  
○深草彩子(琉球大・院・理工)・太田英利(兵庫県大・自然研/人博)・戸田守(琉球大・熱生研)
- P-12 沖縄県道2号線における両生類・爬虫類のロードキルの発生状況の調査  
○丸田裕介(琉球大・農)・鶴井香織(琉球大・農)・辻和希(琉球大・農)
- P-13 西表島において カンムリワシの交通事故が発生する場所の特徴  
○水谷晃(Island Ecosystem Research)・井上太之(IER)・山本誉士(麻布大)・内野祐弥(環境省・西表)・官野愛(環境省・西表)・伊澤雅子(北九州市立自然史・歴史博物館)・河野裕美(IER)
- P-14. 2020年から2021年の沖縄島北部地域(恩納村・金武町以北及び名護市・本部半島以南)におけるツルヒヨドリ *Mikania micrantha* の分布状況  
○新垣裕治(名桜大・国際)
- P-15. 卵タンパク質の熱分解による硫化水素  $H_2S$  ガスの発生  
○吉田侑暉・山崎秀雄(琉球大・理)

\*\*\*\*\*

## 令和4年度 沖縄生物学会 第2回評議員会報告

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会評議員会が2023年4月25日(火)午後6:45から、琉球大学理学部528教室における対面とZoomを併用したハイブリッド形式で開催されました。参加者は16名でした。

### [報告事項]

#### 1. 第60回大会までの流れについて

遠隔での出席者の確認などを行ったのち、戸田代表幹事から、この先、第60回大会・総会までの流れについて説明がなされました。またそれに関連して、本評議員会での要検討事項の確認がありました。

#### 2. 2024年に開催予定の4学会合同大会について

戸田代表幹事から、2024年に開催する本学会の年次大会が、動物学会、植物学会、生態学会とともに行う4学会合同大会となることが説明されました。4学会合同大会とすることは、昨年の総会で承認済みでした。合同での準備や広報などのため、日程や会場を早く決める必要があるとの説明がありました。

#### 3. 第14回池原貞雄記念賞の授賞候補について

所用で参加が遅れた佐々木池原貞雄記念賞選考委員長に代わって、伊澤会長から、2022年度事業である第14回池原貞雄記念賞について、推薦がなかったため該当者なしとせざるを得なかったとの説明がありました。これを受け、戸田代表幹事から、大会等で次回の授賞候補者(推薦者)について呼びかけを行う必要があるとの話がありました。評議員も含めて、自薦他薦を問わず、積極的に考えていきましょうとの確認がなされました。

#### 4. その他

前回の役員の改選から、所属にとられない評議員枠を設けることになり、その体勢で学会運営をしていますが、名簿には所属を書き忘れているので、その部分を削除し、「その他枠」であることを徹底していこうとの確認がありました。

### [審議事項]

#### 1. 第60回大会準備・運営・分担について

竹村大会実行委員長より、第60回大会は2023年5月20日(土)に琉球大学理系複合棟で開催予定であることが報告されました。そのうえで、大会に向けた準備状況、発表演題申込数、プログラム案の概要などについて説明があり、評議員会として確認をしました。また、公開シンポジウムについて、同じく竹村大会実行委員長より案の提示があり、質問や議論を経た後、実施体制を含む内容が承認されました。詳細は1~7ページをご覧ください。

#### 2. 香村眞徳元会長のご逝去について

伊澤会長から、去る4月9日に香村眞徳元会長が永眠されたので会員諸氏から追悼文を募って学会誌に掲載してはどうかとの提案があり、承認されました(10ページに関連記事)。

#### 3. 学会通信112号(本通信)の内容について

山川庶務幹事により、通信112号の内容に関する案の提示がなされました。第60回大会での公開シンポジウムが国立自然史博物館設立に向けた内容ということもあり、その関連記事が多くなるが、現在、博物館設立に関連した動きが盛んで報告すべきことも多いということで、複数のページに関連記事を載せることで承認されました(5ページと9ページに関連記事)。

#### 4. 2024年の4学会合同大会について

上記の報告2に関連し、大会会場と日時、準備体勢について議論がなされました。日程の重複を避けたい沖縄生物教育研究会について新城評議員から情報提供があり、それも加味したうえで、5月に琉球大学での開催を候補とすることが確認されましたが、教室の確保なども必要なため、日程については幹事会に一任することが承認されました。



\*\*\*\*\*

## 国立自然史博物館誘致の現状報告

\*\*\*\*\*

2022年は沖縄が本土復帰して50年でした。2022年度に沖縄県主催の復帰50周年記念事業として、国立沖縄自然史博物館誘致に関わる様々な取組が行われてきました。前号(111号)でお知らせした以外の活動をご報告させていただきます。

### 復帰50周年記念事業 令和4年度国立自然史博物館誘致ミニシンポジウム

#### 1. ミニシンポジウム in 八重山(企画展・写真展開催中でのイベント)

- ① 会場:石垣市役所 1階ロビー横コミュニティールーム
- ② 日時:2023年1月28日(土) 14:00~16:00
- ③ 講演:  
佐藤圭一(一般社団法人ちゅら島財団 水族館統括)  
「沖縄のサメ・エイ類とその多様性」  
高嶋敦史(琉球大学 助教)  
「奄美・琉球の世界自然遺産の森の保全にむけて」

#### 2. ミニシンポジウム in 宮古島(企画展・写真展開催中でのイベント)

- ① 会場:未来創造センター研修室
- ② 日時:2023年2月12日(土) 14:00~16:00
- ③ 講演:  
藤田喜久(沖縄県立芸術大学全学教育センター 教授)  
「宮古島を特色付ける地下水・湧水の生物とその由来」  
当山昌直(総合地球環境学研究所 共同研究員)  
「宮古の生物文化—天の蛇と神の蛇」

#### 3. 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産展」関連イベント

- ① 会場:沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂
- ② 日時:2023年3月12日(日) 14:00~16:00
- ③ 講演:  
比嘉明男(一般社団法人国頭村観光協会 会長)  
「ヤンバルクイナの郷 安田」  
美延睦美(NPO 法人徳之島虹の会 事務局長)  
「守りつなぐべき自然がここにある」  
長嶺 隆(NPO 法人どうぶつたちの病院 沖縄 理事長)  
「世界自然遺産は未来との約束」  
岸本健雄(一般社団法人国立自然史博物館設立準備委員会 代表理事)  
「国立沖縄自然史博物館構想 —世界自然遺産の地に—」

#### 4. 沖縄県環境部自然保護課 国立沖縄自然史博物館ホームページ開設

<https://www.okinawanhm.com>

#### 5. 復帰50周年事業 国立沖縄自然史博物館誘致シンポジウム Youtube

<https://www.youtube.com/watch?v=j2u-b7daloY>



企画展・写真展、ミニシンポジウム  
パンフレット(宮古島市版)



Youtube QR コード

\*\*\*\*\*

## 香村眞徳先生訃報のお知らせ

\*\*\*\*\*

元沖縄生物学会会長、琉球大学名誉教授香村眞徳先生が、2023年4月9日にご逝去されました。92歳でした。

香村先生は、琉球大学に1960年から1998年まで在職され、学部・大学院での教育、研究に取り組まれたばかりでなく、現熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設において、サンゴ礁の生物の研究のために国内外から訪れる多くの研究者の研究の場の提供や共同研究を進めて来られました。

1996年度から1999年度の4年間に沖縄生物学会会長を務められ、その間に学会から「諫早湾の水門開放についての要請」を提出するなどの学会の活動にご尽力いただきました。ご専門とされていた藻類学のご研究の他にも、沖縄県のさまざまな環境調査を実施され、沖縄県版レッドデータブックにも初版から精力的に関わってこられるなど、沖縄の自然環境の保全に取り組んでこられました。

ご冥福お祈りいたします。

\*\*\*\*\*

## 池原眞雄記念賞について

\*\*\*\*\*

通信111号にて、沖縄生物学会池原眞雄記念賞の候補者を募集しましたが、今回は応募がありませんでした。本賞は、沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるものです。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします(次回は通信113号で募集)。

### <表彰対象者の概要>

- 1) 表彰者は原則として、個人の場合は学会会員(授賞式の時点で会員歴が1年以上)であること、団体の場合は会員3名以上が推薦する団体であること。
- 2) 表彰の対象は、次の各号の一に該当する個人または団体とする。
  - (1) 研究奨励部門 沖縄の自然もしくはその保護に関し顕著な貢献が期待される研究を行った個人(沖縄の生物に関する論文、講演などの実績がある・若手研究者を優先とする)。
  - (2) 教育功労部門 長年にわたり沖縄の自然もしくはその保護に関する教育実践、普及等に従事し、顕著な功績のあった個人または団体(沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績がある)。
  - (3) 環境保護部門 長年にわたり沖縄の自然環境保護に関する活動を継続し、顕著な功績のあった個人または団体(沖縄の自然環境の保全に関する書籍、事業、イベントなどの活動実績がある)。

### 【過去の受賞者一覧】

第13回(2022年) 研究奨励部門 水谷晃(Island Ecosystem Research) 「人の暮らしと生物の応答: 海鳥、カンムリワシ、海草とアオウミガメを例に」

第11回(2020年) 教育功労部門 安座間安史 「沖縄の自然、環境教育に対する長年の貢献」

環境保護部門 公益財団法人 沖縄こどもの国 「沖縄の在来生物保護を目指した飼育下研究と普及啓発」

第9回(2018年) 環境保護部門 NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄

「沖縄の希少動物と生態系保全を目指した獣医学的活動」

第6回(2015年) 研究奨励部門 中西 希(琉球大学理学部) 「イリオモテヤマネコの長期生態研究」

教育功労部門 沖縄生物教育研究会 「会員相互の研鑽、理科教育の発展、書籍の発刊等の長期活動」

第4回(2013年) 中村 剛(台湾中央研究院生物多様性センター) 「琉球、台湾、フィリピンの植物地理」

第3回(2012年) 藤田喜久(琉大・大学教育センター/NPO 法人海の自然史研究所)

「沖縄での生物多様性研究と研究成果の地域への還元」

小倉 剛(琉球大学農学部) 「沖縄島におけるマングースの効果的防除対策に関する基礎研究」

第2回(2011年) 小高信彦(森林総研・九州支所) 「ノグチゲラと暮らせる森づくりに向けて」

第1回(2010年) 佐々木健志(琉球大学資料館) 「沖縄の絶滅に瀕した昆虫類の現状と同じく絶滅に瀕した菌算について」  
※第12回(2021年)、10回(2019年)、8回(2017年)、7回(2016年)、5回(2014年)、該当者なし。

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会 役員一覧表

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2023年4月時点)。任期は2年間で、2024年5月の総会までです。

会長 伊澤 雅子(北九州市立自然史・歴史博物館)  
副会長 佐々木 健志(琉球大学) 豊島 正憲(沖縄生物教育研究会)

監査員 菊川 章(沖縄県立博物館・美術館) 比嘉 俊(琉球大学)  
今井 秀行(琉球大学)

### 評議員

大学関係 坂下 光洋(名桜大学) 照屋 建太(沖縄キリスト教短期大学)  
研究機関 米倉 浩司(沖縄美ら島財団) 糸 正幸((株)イーエーシー)  
宮本 真琴((一財)沖縄県環境科学センター)  
行政機関 新城 憲一(沖縄県教育庁文化財課)  
高校関係 大城 直輝(豊見城高校) 島袋 陽(辺土名高校)  
知念 美香(小禄高校)  
中学校関係 平良 正哉(佐敷中学校)  
その他 当山 昌直

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 佐々木 健志(琉球大学)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事 戸田 守(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)  
竹村 明洋(琉球大学) 山川(矢敷) 彩子(沖縄国際大学)  
江藤 毅(琉球大学)  
会計幹事 傳田 哲郎(琉球大学) 小林 峻(琉球大学)  
編集幹事 藤田 喜久(沖縄県立芸術大学) 城ヶ原 貴通(沖縄大学)  
編集委員 佐々木 健志(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)  
前田 健(沖縄科学技術大学院大学) 傳田 哲郎(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

\*\*\*\*\*

## 沖縄県生物学会 賛助会員

\*\*\*\*\*

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行  
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石正明  
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀  
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

\*\*\*\*\*

## 原稿募集のお知らせ

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会誌では、随時原稿を募集しています。投稿を希望される方は、投稿規定に沿って原稿(原則として電子ファイルのみを受け付けます)を準備いただき、**投稿専用アドレス(journal@okibio.jp)**までお送りください。

本年度(2023年)から、発刊に向けた諸作業(受理原稿の編集・校正・印刷業者との調整など)を考慮し、**12月末までに受理された原稿について、翌年3月に発行される号に掲載することと致しましたのでご注意ください。**

沖縄生物学会誌は、毎年1号、毎年3月末に発行される予定となっています。投稿された論文原稿の審査(査読)は、通常2ヶ月～3ヶ月程度要します(査読結果次第では半年以上かかる場合もあります)。これらの発行スケジュールをご理解の上、十分な時間的余裕を持って、ご投稿をお願い致します。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、投稿に関するお問い合わせについては、編集幹事の藤田喜久(journal@okibio.jp)までお寄せ下さい。

原稿送付先：**journal@okibio.jp** (沖縄生物学会誌 編集幹事)

## 沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内

生物系事務室 TEL：(098) 895-8577

庶務幹事 中村 崇 (098) 895-8897

FAX：(098)895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp

振替口座(郵便)：02030-8-30433 沖縄生物学会